【追加様式2】

令和7年度 和歌山県地域と学校の連携・協働体制推進事業におけるふりかえり

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の報告

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和7年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値		アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）	目標等の公表先
上富田町	③学校と家庭の課題	02 放課後等における多様な体験活動	学校の学習はカリキュラムに沿って行う必要があるため、多様な体験学習を取り入れることが難しい。	年間を通して様々な体験を行う放課後子ども教室を実施。	年間　46回放課後子ども教室を開催し、体験型防災学習、SDGs等内容の充実を図る。	体験活動に児童が興味・関心を高め、特技を活かそうとしている。	教室の満足度を5段階で評価するうち、5をつけた回答の割合。（年度末にアンケートを実施）	0		80	100	5	趣向を凝らした講座が特徴で、アンケート結果では100%の満足度だった。子どもたちの興味関心を引き出す講座を展開していきたい。だが、学校を限定しているため、各小学校区での実施を検討していく必要がある。	https://www.town.kamitonda.lg.jp/soshiki/kyoiku/kurashi/kyoiku_bunka/4247.html
	③学校と家庭の課題	01 家庭等における学習習慣の定着	集中力を持続できない児童が増加している。学校の授業等でじっくりと時間をとって書き方を習う経験も不足している。	放課後に硬筆教室を実施。	集中して机に向かう力を養う場として、硬筆教室を開講し、指導者が時間をかけ丁寧に書き方指導を行う。	書き方を丁寧に練習することにより、児童が自然に集中力を高めている。	教室に通ったことによって、以前と比べて集中力がついたと回答した児童の割合。（年度末にアンケートを実施）	0		80	10	1	人手不足により、補助スタッフによる見回りが十分ではなかった。「集中して静かに書く」を定着させるために座席の配置の工夫、補助スタッフの見回りを実施したい。書き終わった児童の待機場所を工夫する。	https://www.town.kamitonda.lg.jp/soshiki/kyoiku/kurashi/kyoiku_bunka/4247.html
	③学校と家庭の課題	05 その他	子ども達が自分で生活する力や協調性を養うことが望ましいが、子ども達だけで共同生活を行う機会が学校での学習だけでは少ない。	小学6年生の児童を対象に、通学合宿を実施。	通学合宿を継続して実施し、農業体験や金融教室等様々なプログラムを企画する。	参加児童が生活力や協調性を身につける。	通学合宿の終了後にアンケートをとり、その中で以前より生活力が身についたと回答した児童の割合。	0		60	100	5	アンケート結果で目標を大きく上回る100%を達成した。地域ボランティアに協力をいただき食事を作ったり、もらい風呂を実施した。家庭から離れ、生活をする大変さや家族のありがたさを学ぶことが出来る貴重な体験であった。 今年度も防災学習の一環として、災害用段ボールベッドを寝床とした。自ら組み立て・片づけることをし実践練習で学びを深めた。来年度も防災学習と結び付け、防災意識を高めていきたい。	https://www.town.kamitonda.lg.jp/soshiki/kyoiku/kurashi/kyoiku_bunka/4247.html